

平成25年度事業報告

平成25年4月、新体制になって2年目がスタートした。平成24年度は新たな法人また新たな執行体制で、組織運営、事業展開等、様々な面で試行錯誤の1年であったが、新体制も2年目を迎え、平成24年に承認された執行理事が初めて自らの手で日臨技の在り方や将来像を見据えて事業を立案し実行した年となった。多くの問題を抱えつつも、理事や各種委員会メンバーなどに支えられて、強力な組織運営が図られた。

組織運営の面では事務局機能の強化を目的として、新たに事務局長・事務部長を迎えた。事務局の企画立案、監視機能が強化されたことにより、厚生労働省をはじめとする関連他団体との交渉や入札制度の見直し、各種規程・細則の見直し、国際関連事業、広報活動など、総務関連の各事業が大きく前進した。また「第4次マスタープラン策定委員会」を発足させ、日臨技の将来を見据えた上で、私たちが取り組んでいかなければならない問題や、組織拡充のために取り組まなくてはならない課題等について検討を行った。新たな取り組みとしては、設立母体別代表者会議を開催し技師会内の横の繋がりを強化するとともに、利益相反自己申告制度を開始し、組織のガバナンス強化も行った。

初めて開催した全国一斉の「検査と健康展」は、厚生労働省の後援を得ることができ、関係諸団体からも後援、協力を得ることができた。また、国民向け広報誌「ピペット」を発刊し、広く国民に「臨床検査技師」、「臨床検査技師会」を知っていただく手段が確立した。

チーム医療の実践においては、渉法問題対策委員会及びチーム医療推進委員会の協働、チーム医療推進協議会、臨床検査振興協議会との連携を通じて、臨床検査業務のグレーゾーンに関する検討を行った。日進月歩の医療界において、臨床検査技師の活躍の場と担うべき領域を医行為と峻別し、臨床検査技師の業務拡大を図り、今国会において臨床検査技師等に関する法律の改正が閣議決定を経て提案される予定である。また併せて厚生労働省令の生理学的検査項目に微生物学的検査等(インフルエンザ等)における検体採取及び嗅覚検査、味覚検査等が追加され改正による予定である。

検査説明・相談のできる技師育成では、講習会カリキュラムを作成し、都道府県での講習会を円滑に実施できることを目的とした「検査説明・相談のできる検査技師育成企画担当者講習会」を開催した。

当会の会長が、厚生労働大臣から中央社会保険医療協議会の専門委員に任命され、臨床検査関係に係る診療報酬改定については、積極的に意見を述べ、血液採取料等の増額が図れるなど、一定の成果が得られた。平成26年度の診療報酬改定については、その周知を図り、診療報酬制度への理解を深めていただくことを目的として、厚生労働省担当官を講師に招き、説明会を開催した。

認定技師制度では、新たに認定病理検査技師及び認定認知症予防検査技師(仮称)の準備委員会を開催し、平成26年度以降の実施に向けて準備がスタートした。

学術事業では、新たに学術企画委員会を設置し、「先駆的臨床検査技術研修会」や「先端的医学技術に関する学術講演会」を開催、会誌「医学検査」をはじめとする出版事業の内容の見直しなど、多角的な視点で学術活動を振興させ、会員の学術向上に繋がる事業施策を展開した。臨床検査標準化事業においては今後の基礎となる活動を進め、精度保証認証施設の拡大を図った。

その他、平成25年度は上記以外にも、多くの事業に取り組み、実務に当たられた多くの担当者の努力によって、予定事業を無事遂行することができた。

検査及び検査技師の実態調査に関すること

1 調査の実態調査

検査室を取り巻く医療情勢の影響を把握し、今後の日臨技事業活動の参考資料とするため、組織調査を実施した。

- 1) 会員の意識調査
- 2) 検査部門の実態調査

関係省庁との連携に関すること

2 関係省庁との連携

検体測定室に関するガイドライン、グレーゾーン領域の業務認証に向けて以下の事項に取り組みを行った。

- 1) 厚労省医政局医事課長面談
- 2) 厚労省チーム医療推進事業への参画
- 3) 厚労省通知のHP掲載
- 4) 厚労省医政局長宛 味覚検査・嗅覚検査の生理機能検査への追加要望書提出
- 5) 厚労省医政局長宛 眼圧測定(ノンコンタクトトノメーターによる)検査の取り扱い要望書提出
- 6) 臨床検査技師による微生物学的検査等(インフルエンザ等)の検体採取の業務追加

内外の関係団体との連携に関すること

3 国際学術交流の推進

2016年に神戸で開催されるIFBLS学会を控え、IFBLS国内組織委員会、IFBLS学会実行委員会を組織した。一般社団法人日本臨床検査医学会、日本臨床検査専門医会、一般社団法人日本臨床検査薬協会、一般社団法人日本衛生検査所協会、一般社団法人日本臨床検査薬卸連合会、一般社団法人日本臨床検査学教育協議会など外部6団体の協力を得ながら、連携の具体化や学会の基本構想、実施計画等について検討を行った。

また、国際的な人材育成を目的として、大韓臨床病理士全国総合学術大会及びアジア検査医学会(AAMLS)の参加者に対して助成を行った。

4 日韓代表者会議の開催

- 1) 平成25年度日韓代表者会議は、平成25年5月17日(木)サンポートホール高松 55会議室において開催した。日韓協定に基づき、代表団3名及び交流功労者表彰1名を招請した。
- 2) 平成25年度韓日代表者会議及び第51回大韓臨床病理士全国総合学術大会が、平成25年5月10日(金)・11日(土)韓国・光州市において開催され、宮島会長、小松理事、大澤支部長及び交流功労者被表彰者として村瀬光春元副会長を派遣した。
また、一般会員7名及び、韓日交流功労者会議に岩田・浅井・才藤各交流功労者が参加した。

5 関連団体への協力(JIMTEF)

第1回JIMTEF災害医療研修アドバンストコースに技師の推薦並びに講師を派遣した。

6 IFBLSへの対応

- 1) IFBLS International BLS dayのポスターを受理し、ホームページ等で広報を行った。
- 2) 第31回世界医学検査学会 (IFBLS) が平成26年10月3日から7日まで開催されるにあたり、参加者、演題発表の募集を行った。発表参加者 (定員20名) への当会補助は諸費用の2分の1とした。

7 AAMLSへの対応

AAMLS理事会が平成25年4月20 (土)に台湾 台北コンベンションホールで開催され、小崎AAMLS理事を派遣した。

8 中華民国医事検査師公会全国联合会への対応

- 1) 平成25年4月19日(金)・20日(土)に台湾 台北コンベンションホールで開催された第6回APMLS学会に招請され、松本副会長、小松理事を派遣し交流を図った。
- 2) 第63回日本医学検査学会への招請 (3名) を行った。

医療関連法規・制度に関すること

9 グレーゾーン領域の業務認証に向けての取り組み

渉法問題対策委員会の中間答申に基づき、グレーゾーン領域の業務認証に取り組んだ。また、これに際しては、日本臨床検査技師連盟と連携・分担し、臨床検査を取り巻く医療全体に視野を広げて渉外法規問題に取り組んだ。

具体的にはチーム医療推進協議会と連携し、検体採取に関する臨床検査技師等に関する法律の改正が今国会に上程されることが閣議決定された。

また、法律改正に関しては見直しが概ね4～5年おきに実施されていることに鑑み、先を見据えた定常的な活動を行う基盤整理を行った。当面の課題とされた調査研究・根拠資料の整備、関連団体及び厚生労働省との定期的かつ継続的な折衝を積極的に行ない、日臨技として臨床検査技師の制度・身分の確立をゆるぎないものとする施策に取り組んだ。

10 省令改正に向けての取り組み強化 (味覚・嗅覚など)

業務拡大に向け厚生労働省と折衝し、味覚・嗅覚検査に関して省令改正の目処がついた。

11 平成26年度診療報酬改正に向けての取り組み

診療報酬対策委員会によるアンケート調査結果に鑑み、当会独自の要望書の作成・提出をこれまでどおり行った。また、昨年度加入した臨床検査振興協議会の各種委員会・WGに継続して診療報酬対策委員を派遣し、臨床検査振興協議会から内科系学会社会保険連合を通じた要望書の提出にも当会の意見を反映させた。

12 検査説明・相談のできる技師育成

検査説明・相談ができる臨床検査技師を育成するため、講習会カリキュラムを作成し、都道府県での講習会を円滑に実施できることを目的とした、検査技師育成企画担当者講習会を平成25年12月6日(金)～8日(日)にLMJ東京研修センターで開催した。参加者は都道府県技師会に1名の推薦を依頼した。

13 特定業務（輸血・感染症など）法制化に向けて取り組み

特定業務について、法制化を進めるためにも、感染症領域の検体採取に関しては上述のとおり法律改正が予定されている。法改正・省令改正に伴う研修会の検討に関する厚生労働省研究班に班員を派遣した。

14 臨床検査振興協議会・WG会議への参画

臨床検査振興協議会の理事会、各種委員会・WGに以下のとおり役員及び診療報酬対策委員を派遣した。

- 1) 理事会 副理事長 : 宮島会長
理 事 : 松本副会長、下田常務理事、萩原、津田の両執行理事
- 2) 定款改定委員会 : 下田常務理事
- 3) 医療政策委員会 : WG-A 椎津診療報酬対策委員長、WG-B 同 林副委員長
WG-C 同 武井委員、WG-D 同委員 齊藤理事
- 4) 広報委員会 : 津田執行理事、小澤理事

これにより、臨床検査振興協議会から内科系学会社会保険連合を通じた要望書の提出の道を開いた。

15 チーム医療推進協議会への参画

チーム医療推進協議会に以下の理事を派遣し参画した。

- 1) 代表者会議 : 宮島会長、松本副会長、下田常務理事
- 2) 運営委員 : 下田常務理事
- 3) 広報委員会 : 上原執行理事

認定制度に関すること

16 認定検査技師機構

本機構で実施されている技師認定について、引き続き参画するとともに、関連学会と協議会による連携を密にし、情報収集と適正な運営を行った。

17 日臨技認定センター

認定センターを組織する中央委員会、認定協議会、各認定審議会を開催し、付属するワーキンググループも方針に沿った活動を行った。

認定一般検査技師制度、認定心電検査技師制度、認定臨床染色体遺伝子検査師制度の認定試験を実施した。また、各認定資格の更新申請を受け、認定センター中央認定委員会にて試験合否と更新可否を審査し承認した。認定総合監理検査技師制度では、認定管理検査技師コースの集合講習を実施し、課題討論とレポートによる認定資格を審査し承認した。更に、新たな認定検査技師制度として、認定病理検査技師及び認定認知症予防検査技師(仮称)の準備委員会を設置し協議した。

18 平成25年度の各認定試験

- 1) 認定一般検査技師制度
日 程 : 平成25年10月20日 (日)
会 場 : 日本青年館
受験者 : 111名

2) 認定心電検査技師制度

日 程：平成25年12月15日（日）

会 場：日本教育会館

受験者：102名

3) 認定臨床染色体遺伝子検査技師制度

日 程：平成25年12月1日（日）

会 場：日本臨床検査技師会館

受験者：染色体分野 6名 遺伝子分野 8名

4) 更新申請

(1) 認定一般検査技師 承認者 40名、更新延免申請・承認者1名（更新対象者43名）

(2) 認定心電検査技師 更新申請 承認者 71名、更新延免申請・承認者1名（更新対象者88名）

(3) 認定臨床染色体遺伝子検査師 更新申請 承認者1名（更新対象者1名）

(4) 認定センター中央委員会による試験合否、更新可否判定

各認定検査技師制度において60%以上の正答を得た者を合格とした。

また、審査の結果、更新申請・更新延免申請者は全員を承認した。

各領域の認定期間は、平成26年4月1日から平成31年3月31日までの5年間とした。

① 認定一般検査技師 試験合格者 39名（受験者111名） 合格率35.1%

② 認定心電検査技師 試験合格者 76名（受験者102名） 合格率74.5%

③ 認定臨床染色体遺伝子検査師 染色体分野 合格者3名（受験者 6名） 合格率50%
遺伝子分野 合格者4名（受験者 8名） 合格率50%

5) 認定総合監理検査技師制度

平成24年度認定管理検査技師コース受講者46名全員の修了を承認した。

平成25年度認定管理検査技師コースに受講者48名の申し込みがあった。

19 認定制度対策研修会

認定一般検査技師制度、認定心電検査技師制度、認定臨床染色体遺伝子検査技師制度取得者を対象とした研修会を、各支部・都道府県技師会の申請により以下のとおり開催した。

1) 認定一般検査技師研修会

平成25年 5月 香川県技師会

平成25年 7月 東北臨床検査技師会

平成25年 8月 日臨技認定センター主催（東京）

平成25年 9月 関甲信支部、東京都技師会、富山県・石川県・福井県技師会

平成25年10月 福岡県技師会

平成25年11月 福島県技師会、長野県技師会、愛知県技師会

平成25年12月 東京都技師会

平成26年 1月 中部圏支部、広島県技師会、長崎県技師会

平成26年 2月 近畿支部、岡山県技師会

平成26年 3月 山形県技師会

2) 認定心電検査技師研修会

平成25年 9月 日臨技認定センター主催（東京）

平成25年11月 日臨技認定センター主催（東京、京都）

平成26年 2月 埼玉県技師会、岡山県技師会

学術的な研究、調査及び研修に関すること

20 日臨技研修会事業の推進

日臨技研修会は国民の視点に立ち、臨床検査技師として必要とされる政策的研修会と位置づけこれを実施した。

1) 日臨技による直接運営の研修会

(1) 先端医学技術に関する学術セミナー(講演会)の開催

将来性・話題性が高く、臨床検査の領域に関連してくると想定される高度専門知識を習得できる学術セミナー(講演会)を企画し、開催した。

- ・第1回先端医学技術に関する学術講演会 『分子標的治療と遺伝子病理』

日 時：平成26年2月15日(土)

場 所：日本臨床検査技師会館 3階 第1会議室

参加者：39名

(2) 先駆的臨床検査技術研修会の開催

遺伝子・染色体、超音波、病理等のような、先駆的な取り組みが要求される検査において、検査知識や技術を普及させるための研修会を1研修会において数回または数日の集中的な講習会として開催した。

- ・平成25年度 第1回遺伝子・染色体研修会

日 時：平成25年11月22日(金)～24日(日)

場 所：日本臨床検査技師会館 3階 第1会議室

参加者：76名

- ・平成25年度 第1回 病理研修会

日 時：平成26年1月17日(金)～19日(日)、2月1日(土)～2日(日)

場 所：日本臨床検査技師会館 3階 第1会議室

参加者：70名

- ・平成25年度 日臨技第1回超音波研修会

日 時：平成26年2月21日(金)～2月23日(日)

場 所：日本臨床検査技師会館 3階 第1会議室

参加者：56名

2) 各支部運営で行った研修会

(1) 支部指定講習会輸血に関する研修会(各支部で募集—60名~100名)

- ①北日本支部 開催日程：平成25年12月14日(土)・15日(日)

開催場所：秋田大学医学部

参加者数：60名(募集—60名)

- ②関甲信支部 開催日程：平成26年1月19日(日)

開催場所：高崎総合医療センター

参加者数：106名(募集—100名)

- ③首都圏支部 開催なし

- ④中部圏支部 開催日程：平成25年11月2日(土)・3日(日)

開催場所：岐阜大学医学部

参加者数：59名(募集—60名)

- ⑤近畿支部 開催日程：平成26年2月15日(土)・16日(日)

開催場所：奈良県橿原文化会館

参加者数：59名(募集—60名)

- ⑥中四国支部 開催日程：平成25年10月5日(土)・6日(日)
開催場所：川崎医療短期大学
参加者数：126名（募集－100名）
- ⑦九州支部 開催日程：平成25年11月9日(土)・10日(日)
開催場所：日本文理大学医療専門学校
参加者数：69名（募集－60名）
- (2) 支部指定講習会微生物に関する研修会（各支部で募集－60名~100名）
- ①北日本支部 開催日程：平成25年11月16日(土)・17日(日)
開催場所：岩手医科大学歯学部
参加者数：54名（募集－70名）
- ②関甲信支部 開催日程：平成25年11月23日(土)
開催場所：獨協医科大学越谷病院
参加者数：64名（募集－60名）
- ③首都圏支部 開催なし
- ④中部圏支部 開催日程：平成26年2月23日(土)
開催場所：TKP名古屋ビジネスセンター
参加者数：103名（募集－100名）
- ⑤近畿支部 開催日程：平成25年11月23日(土)・24日(日)
開催場所：京都府立医科大学附属病院
参加者数：38名（募集－60名）
- ⑥中四国支部 開催なし
- ⑦九州支部 開催なし
- (3) 支部の特性を活かした研修会をそれぞれ開催し会員の学術レベルの向上を図った。
- | | |
|-------|----|
| 北日本支部 | 4回 |
| 関甲信支部 | 7回 |
| 首都圏支部 | 4回 |
| 中部圏支部 | 6回 |
| 近 畿支部 | 6回 |
| 中四国支部 | 1回 |
| 九 州支部 | 7回 |

会誌等の編集・発行に関すること

21 会誌「医学検査」・会報JAMTの発行

出版委員会を新設し、会誌「医学検査」をより学術性の高い会誌として充実させるため、編集・企画・規程の見直しを行うとともに、発刊までの査読・編集等の手順の見直しを図り「医学検査」を年6回発行した。

また、第62回日本医学検査学会の抄録を電子書籍版としてCD化した学会特集号を発行した。会報JAMTを「医学検査」に同封し効率化を図るとともに、ホームページにも会報をその都度アップし、リアルタイムな情報をいち早く会員へ伝達した。

「医学検査」の業務委託先について、総合評価方式入札制度を用いて募集し、より学術誌として高めることができる実績、提案、コスト面をもった業務委託先を選定した。

「医学検査」について、独立行政法人科学技術振興機構が運営するJ-STAGEへの登載を申請し、許可を得た。

22 ライブラリー等の出版

日臨技が出版している各教本の在庫状況、出庫状況を検討したうえで、日臨技教本シリーズの出版計画を行うとともに関連規程を整備した。現在の教本については、シリーズ発刊の計画を見据え必要に応じ増刷を行った。

教育制度に関すること

23 e-ラーニング等の教材の充実

これまでに作成された血液部門のe-ラーニングに加え、緊急検査に関するe-ラーニング教材を作成した。各分野間での調整後、ホームページにて掲載していく予定である。DVDによる研修についても、検査相談の説明できる研修会の講義等はDVDを作成し、都道府県、研修担当者に配付した。

24 人材バンク（講師）の設立

支部、都道府県技師会での講師選定に対する支援を行うため、研修会講師の人材バンクとしての登録や、支部、都道府県技師会での研修会講師の紹介・派遣の推進について検討した。

25 卒前教育としての適切な実習の推進

病院など臨地実習を担当する会員に対して、「臨地実習ガイドライン2013」による臨地実習研修会を平成25年12月7日(土)・8日(日)に開催した。参加者46名

関連学会に関すること

26 関連学会との連携

日臨技と日本臨床検査医学会（JSLM）合同未来構想WGを通じ、今後の学術活動など相互連携を図り、第62回日本医学検査学会（香川県開催）において、“臨床検査技師の将来展望”をテーマに日臨技 - JSLM共催シンポジウムを開催した。また、神戸市で開催された第61回日本臨床検査医学会学術集会においては、共催シンポジウム“臨床検査部は今後何をすべきか？”をテーマに役員を派遣した。

精度管理事業に関すること

27 臨床検査精度管理調査の推進

精度管理事業や臨床検査値標準化事業を通じて検査データの質と精度向上に積極的に取り組むとともに、事業の充実を図り、精度保証認証制度認証施設の全国への普及を進めた。

1) 平成25年度日臨技精度管理事業

臨床検査精度管理調査の3783施設の参加があり昨年より103施設増加した。10年前の平成15年度より化学、血液、一般及び輸血検査はそれぞれ850余りの施設増加となった。臨床化学部門の試料でバイアル間差が生じ一部の項目を評価対象外とした。9月上旬に速報の形で施設別報告書の発行、CDによる総合報告書による配付は2年目となった。

2) 日臨技精度管理調査総合報告会を平成26年3月8日(土)に「ベルサール新宿グランド（東京都新宿区）」で開催し、参加者数は590名で活発な質疑が行われた。

日本医学検査学会等に関すること

28 日本医学検査学会

- 1) 第62回日本医学検査学会は、平成25年5月18日(土)・19日(日)の両日、サンポートホール高松かがわ国際会議場、アルファあなぶきホール、JRホテルクレメント高松を会場にメインテーマを「健康への道標」、サブテーマを「予防医学における臨床検査技師の役割」として開催した。入場者総数 3,093名、展示発表会には、81社の申し込みがあり、16,986名の入場者数で盛会だった。
- 2) 第63回日本医学検査学会において、昨年に引き続き「日韓学生フォーラム」の開催を企画し、また、2016年に神戸で開催するIFBLS 世界医学検査学会に向けて、より多くの会員が英語での学術発表を行えるよう「英語ポスターセッション」の開催を企画した。
- 3) 学会組織委員会・学会運営部会
学会組織委員会を6月、12月の2回、第63回日本医学検査学会運営部会を6月、12月、2月の3回、第64回日本医学検査学会運営部会を6月、2月の2回開催した。
- 4) 第65回日本医学検査学会の開催担当として近畿支部・兵庫県技師会から立候補を受け承認した。
会期：平成28年9月3日(土)4日(日)、学会会場：神戸国際会議場
- 5) 支部学会開催 7支部
 - (1) 日臨技北日本支部医学検査学会 (第2回)
会期：平成25年10月12日(土)・13日(日)
会場：仙台国際センター (宮城県仙台市)
学会長：長沢光章
参加数：984名
 - (2) 日臨技関甲信支部医学検査学会 (第50回)
会期：平成25年10月5日(土)・6日(日)
会場：つくば国際会議場
学会長：直井芳文
参加数：973名
 - (3) 日臨技首都圏支部医学検査学会 (第2回)
会期：平成25年10月26日(土)・27日(日)
会場：KFC ホール (東京都墨田区)
学会長：下田勝二
参加数：1,005名
 - (4) 日臨技中部圏支部医学検査学会 (第52回)
会期：平成25年11月23日(土)・24日(日)
会場：三重県総合文化センター (三重県津市)
学会長：小林圭二
参加数：1,003名
 - (5) 日臨技近畿支部医学検査学会 (第53回)
会期：平成25年10月19日(土)・20日(日)
会場：フェニックス・プラザ (福井県福井市)
学会長：谷口晴信
参加数：988名
 - (6) 日臨技中四国支部医学検査学会 (第46回)
会期：平成25年11月9日(土)・10日(日)
会場：広島国際会議場 (広島県広島市)

学会長：丹下富士男

参加数：1,817名

(7) 日臨技九州支部医学検査学会（第48回）

会期：平成25年10月5日(土)・6日(日)

会場：福岡国際会議場（福岡県・福岡市）

学会長：友松哲夫

参加数：1,634名

職業紹介事業に関すること

29 無料職業紹介

- 1) 昨年度に引き続き事業の継続推進を図ったが、平成25年は多くの求人はあったが求職数は減少した。
- 2) 無料職業紹介事業の業務軽減及び利用者の利便性を考慮し、ホームページでの運用システムを構築し来年度から運用することとした。

会員の共済(福利厚生)に関すること

30 共済事業の推進

- 1) 共済制度 災害支給等に関する細則により 平成25年度見舞金等を支給した。

Bランク：5万円 Cランク：2万円

災害名(発生年)	所属県	申請日	承認日	見舞金支払 ランク	会費減免
東日本大震災(H23)	宮城県	250826	250928	C	
東日本大震災(H23)	福島県	250827	250928	C	
台風18号(H25)	滋賀県	251009	251130	B	H26会費減免
竜巻(H25)	茨城県	251025	251130	C	
大雨による洪水被害(H25)	岩手県	251118	260125	C	

- 2) 全員加入保険(臨床検査技師賠償責任保険)と会務中のケガへの補償(傷害保険)を継続し、この一年間でどちらの保険についても請求事例が発生した。

臨床検査技師賠償責任保険の補償内容は昨年度と同様で、

対人事故：1事故1億円 保険期間中3億円

対物事故：1事故・保険期間中20万円

人格権侵害：1名・1事故・保険期間中100万円

初期対応費用：500万円(うち見舞金は3万円限度)

死亡・後遺障害保険金：110万円

入院保険金日額：2,100円

通院保険金日額：1,400円

手術保険金：入院日額の10、20、または40倍

3) 日臨技リンクスについて

当会会員並びにその家族の医療・傷害・がん・個人賠償責任をカバーする「日臨技リンクス」は、全員加入保険の影響を受け、割引率がアップしたため加入しやすい保険料体系となった。この内容についてはホームページ等を通じて広報し、加入促進を図った。

4) 日臨技パートナーについて

全員加入保険ではカバーできない部分（施設を借りる研修等での施設への賠償責任、会員の家族が参加する行事における家族のケガの補償等）については、引き続き本制度が有効なため、研修会、レクリエーション等に参加する会員に対して“安心”を提供するべく加入促進を図った。

5) JAMT共済ネット

当会ホームページに「JAMT共済ネット」（保険・各種会員割引制度・生活情報サービス）を掲載し会員福利厚生制度の普及推進を行った。

各種割引制度の内容は、

- ① 集団扱自動車保険（通常の掛け金より安い保険料）
- ② 自動車購入紹介制度（有利な条件での自動車購入が可能）
- ③ 住宅購入のアドバイス（積水ハウス）

6) 会員のための各種相談窓口の設置

臨床検査業務、医療事故やヒヤリハット、労務問題、その他プライベートにおける税務問題や心の悩み等、会員が無料で相談できる窓口を設置し、ホームページ等を通じて会員に広報した。

表彰に関すること

31 表彰事業の推進

- 1) 平成24年度の各種表彰は、平成25年度定時総会・第62回日本医学検査学会表彰式において執り行った。永年職務精励者1,014名をはじめ、会長賞1名、功労賞1名、優秀論文賞3編、優秀演題賞3編、特別奨励賞3編であった。
- 2) 平成25年度の各賞被表彰候補者の推薦を依頼した。推薦依頼対象者は以下のとおりである。尚、決定は表彰委員会の審査に基づき決定し、表彰は平成26年度に執り行うこととなる。
 - ① 日臨技有功賞 会長賞、功労賞、特別賞
 - ② 日臨技学術奨励賞 優秀論文賞、優秀演題賞、特別奨励賞
 - ③ 支部学術奨励賞（新設） 特別奨励賞
- 3) その他、結核研究奨励賞被表彰候補者を選考し同審査委員会へ推薦した。

医療安全対策に関すること

32 医療安全対策の推進

- 1) 医療機関における医療安全を推進するため、医療安全管理者の制度を理解する研修会を平成25年11月10日(日)に開催した。また、今後、臨床検査技師が医療安全管理者を担うことができる研修会を次年度に開催するように企画をした。
- 2) 医療安全対策の普及・啓発活動の一環として、厚生労働省の「医療安全推進週間」〈平成25年11月24日(日)～11月30日(土)1週間〉についても会員へ周知した。

検査値標準化に関すること

33 臨床検査データ標準化事業の推進

平成 19 年度より実施してきた標準化事業の実施内容を総括し、今後の事業展開のあり方を検討した。多項目精度管理物質の試料は日赤より受給できる体制が整い、本物質の作成の公募を行った。基準範囲共用化は JCCLS の委員会に委員を派遣し、パブリックコメント、公開に向けて活動した。血液形態標準化普及推進は、日本検査血液学会と血球形態標準化 WG 設置のための準備会合を開催した。

基準検査室については、日本臨床検査薬協会の協力をいただき講習会を開催する合意ができた。認証標準物質の無い項目のハーモナイゼーションの調査を行い、今後の外部精度管理調査評価のために基礎資料とした。

◇ 臨床検査施設認証事業の継続

この事業の認証施設を増やすため、第62回日本医学検査学会でのパンフレットの配布、支部医学検査学会で精度保証セミナーの開催、重点都道府県(8県)の協力をいただき説明会を開催した。認証施設数は、平成25年度は100施設増加し計583施設となった。日本臨床検査標準協議会と施設認証審査を連携して行うこととなった。

34 日本臨床検査標準協議会 (JCCLS) 事業への参画

日本臨床検査標準協議会へ当会から役員を派遣した。また、ISO/TC212国内検討委員会WG1、2、4、尿検査標準化委員会、標準採血法検討委員会、認証委員会、標準物質トレーサビリティ認証委員会、基準範囲共用化委員会へ委員を派遣し、事業に参画した。

35 日本医師会(JMA)精度管理調査事業への参画

日本医師会臨床検査精度管理検討委員会へ委員を派遣し、専門職種の立場から協力した。

国民の健康増進に関すること

36 公益事業の推進

国民へ臨床検査の正しい知識を普及するとともに、臨床検査技師の知名度の普及を図った。

1) 健康と検査展の開催

臨床検査振興協議会の臨床検査月間に併せて全国規模で開催し、国民への臨床検査の普及・啓発を図った。全国に一か所の中央会場を設け、都道府県技師会が主催するものには地方会場として財政支援した。さらに臨床検査専門医会の協力をはじめ各医療団体等の後援を得て開催した。

2) 国民に対する衛生思想の普及啓発を目的に各都道府県の協力を仰ぎ、次の事業を行った。

エイズ・STI	22 都道府県技師会、25 回の開催
がん啓発	30 都道府県技師会、32 回の開催

3) 季刊誌「ピペット」の発行

職能団体として、広く国民に「臨床検査技師」、「臨床検査技師会を知っていただく手段として季刊誌「ピペット」を発刊した。全国の会員在籍施設に配布し配布の協力を募った。

4) 東日本大震災に関する支援

日臨技 甲状腺等音波検査技師養成講座（講習会）を開催した。

第1回 会期 平成 25 年 8 月 24 日(土) 参加者 59 名

第2回 会期 平成 26 年 3 月 1 日(土) 参加者 55 名

37 マタニティー&ベビーフェスタ2013

マタニティーフィットネス協会主催のマタニティー&ベビーフェスタ2013 へ後援し、妊婦の胎児4Dエコー体験、臨床検査（ヘルスチェック）コーナーを併設しこの事業への協力を行った。

首都圏支部等の協力を全面的に受け、4Dエコー・動脈硬化・指尖ヘモグロビン濃度測定・指尖酸素飽和度測定等の検査を行い盛会に開催された。

会期 平成25年4月6日(土)・7日(日)、会場 パシフィコ横浜CDホール

公衆衛生の向上に関すること

38 公衆衛生の向上への寄与

我々臨床検査技師の資質の向上は、すなわち国民の公衆衛生の向上に資するものである。上記各種事業をもって会員はじめ臨床検査技師の知識・技術の研鑽を行い公衆衛生の向上に寄与した。

その他この法人の目的を達成するために必要な事業の実施に関すること

39 新規委員会の設置・創設

定款・諸規程で定められた執行理事会議下にある定例・常設委員会とは別に、総務、渉外、学術3部門の業務執行の円滑化を念頭に、総務委員会、渉外委員会、学術委員会を設置し、学術企画委員会、出版委員会、検査説明・相談のできる技師育成WGを開設し事業を展開した。

また、当会の新たな方向性を確立するため、第4次マスタープラン策定委員会、IFBLS学会国内組織委員会など、外部委員を含めた臨時委員会を創設した。

40 各種会議の開催

以下の各種会議を開催した。

1) 平成25年度定時総会

期日：平成25年5月25日(土) 会場：大森東急イン

2) 全国幹事連絡会議

期日：平成26年1月26日(日) 会場：当会会議室

3) 定例会議

執行理事会議	12回
理事会	6回
総務委員会	4回
学術委員会	4回
渉外委員会	4回

4) 委員会

(常) 予算委員会	3回	(常) 国際交流推進委員会	4回
(常) 人事委員会	3回	(臨) IFBLS 学会国内組織委員会	2回
(常) 表彰委員会	2回	(臨) IFBLS 学会実行委員会	3回
(常) 総合情報委員会	5回	(常) 医療安全対策委員会	5回
(常) 役員選出委員会	2回	(臨) 東日本大震災・原発事故支援に関する	
(常) 共済制度委員会	3回	検討委員会	1回
(臨) 第4次マスタープラン策定委員会	4回	(常) 診療報酬対策委員会	1回

(常) 渉法問題対策委員会	1回	認定制度協議会	1回
(臨) 検査説明・相談のできる技師育成WG	3回	認定一般検査技師制度審議会	1回
(常) 生涯教育・研修制度委員会	1回	同 試験WG	3回
(新) 学術企画委員会	5回	同 研修会WG	1回
(常) 検査値標準化委員会	4回	認定心電検査技師制度審議会	1回
(常) 精度保証認証委員会	4回	同 試験WG	2回
(常) 精度管理調査委員会	3回	同 資格更新・研修会WG	1回
(常) 出版委員会	4回	認定臨床染色体遺伝子検査師制度審議会	1回
(常) 学会組織委員会	2回	同 試験WG	2回
63 運営部会	3回	認定管理検査技師コース審議会	2回
64 運営部会	2回	認定認知症予防検査技師制度(仮称)	
日臨技認定センター		準備委員会	2回
中央認定委員会	1回	認定病理技師準備委員会	3回

41 支部活動の推進

支部活動へ業務の円滑な移行を図るため、都道府県技師会と支部との連携を密にするため、支部内の都道府県会長、幹事、学術部門の代表者及び当該支部に所属する理事による支部内連絡会議を行い、意見集約、情報交換を行った。

また、幹事による会議を年2回開催し、情報交換を行った。

1) 支部内連絡会議 年1回

北日本	平成25年10月11日(金)	会場：TKP 仙台カンファランスセンター
関甲信	平成25年10月5日(土)	会場：つくば国際会議場 406号室
首都圏	平成25年10月26日(土)	会場：KFC ホール
中部圏	平成25年6月2日(日)	会場：名古屋ダイヤビル2号館 245会議室
近畿	平成25年10月19日(土)	会場：フェニックス・プラザ
中四国	平成25年11月8日(金)	会場：ホテルサンルート広島 2階会議室
九州	平成26年2月1日(土)	会場：福岡 八仙閣本店

2) 支部幹事会議の開催

北日本	平成25年6月28日(金)	会場：札幌医科大学 記念ホール会議室A
	平成26年1月24日(金)	会場：日臨技会館
関甲信	平成25年6月9日(日)	会場：ホテル メトロポリタン高崎
	平成26年2月2日(日)	会場：石和温泉 ホテル甲斐路
首都圏	平成25年6月22日(土)	会場：東京臨床検査技師会 事務所
中部圏	平成25年11月22日(金)	会場：三重県津市ホテルグリーンパーク津
	平成26年2月1日(土)	会場：静岡県臨床衛生検査技師会 事務所
近畿	平成25年7月20日(土)	会場：大阪府臨床検査技師会 事務所
	平成26年2月1日(土)	会場：大阪府臨床検査技師会事務所
中四国	平成26年3月15日(土)	会場：JR ホテルクレメント高松
九州	平成25年6月8日(土)	会場：福岡 八仙閣本店
	平成25年10月4日(金)	会場：福岡 八仙閣本店

42 組織基盤の整備

- 1) 第4次マスタープラン策定委員会
計4回の委員会とメール審議を経て、平成26年3月9日(土)に第4次マスタープラン答申書を受理した。
- 2) 会員の利益相反状態を適切にマネージメントするとともに、透明性を高める指針を策定し、学会の演題発表、医学検査の投稿する際に適切に届け出るよう会員に周知を図った。
- 3) 事務局機能の充実を図るため、正規職員 1名、有期雇用契約職員 2名を採用した。

43 組織対策の充実

人材確保のため、高校生へ臨床検査技師養成校への進学を勧めることを目的として、臨床検査振興協議会と協議した。また、入会者を増やし、組織強化を図るため、技師養成校の卒業生加入を促進するとともに、設立母体別で構成する技師会との連携を強化し情報交換を図った。

- 1) 高校生への職業紹介
進路選択時に臨床検査技師が広く知られるよう進学校に職業紹介 DVD などの資料を送付する準備を行った。
- 2) 臨床検査技師卒業生への入会促進
全国の臨床検査養成施設へ当会及び都道府県技師会への入会を勧誘する資料を配付し、組織率向上のための組織強化を図った。
- 3) 設立母体別代表者会議の開催
臨床検査技師で構成する団体の設立母体別の代表者による会議を開催して、当会の運営方針を伝達するとともに、情報の共有化を図った。
- 4) 都道府県技師会主催「新入会員研修会」
新規事業として、新入会員に日臨技の理念、活動を知ってもらい、技師会活動に積極的に参加していくための素地作りとして、各都道府県で行う新入会員研修会に新たなプログラムを取り入れて開催していただいた。全国 20 都道府県 21 回の研修会が開催された。

44 ホームページの活用

当会運営の透明性を確保し、各種情報公開、広報、会告等の迅速で効果的な伝達を図るべく、訪問者別ホームページの再構築に取り組んだ。

45 会員管理システムの構築

都道府県を含む会員管理システムの基盤改善及び安定運用のため、システムサーバの増設とデータベースの整備を行った。

46 主務官庁への報告

以下の文書を内閣府へ提出した。

- 1) 「平成25年度事業計画書・予算書」
- 2) 「平成24年度事業報告書・決算書」
- 3) 「公的支出計画実施報告書等」

47 各種団体への派遣

以下の団体等に役員等を派遣した。

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1) 日本医師会 | 14) 認定検査技師機構 |
| 2) 日本衛生検査所協会 | 15) 認定輸血検査技師制度協議会 |
| 3) 日本医療技術者団体連絡協議会 | 16) 同 審議会 |
| 4) 医療関連サービス振興会 | 17) 認定臨床微生物検査技師制度協議会 |
| 5) 日本臨床検査標準協議会 (JCCLS) | 18) 同 審議会 |
| 6) 臨床検査振興協議会 | 19) サイトメトリー技術者認定協議会 |
| 7) 日本臨床化学会 | 20) 同 審議会 |
| 8) 日本臨床検査医学会 | 21) 認定血液検査技師制度協議会 |
| 9) 産業技術総合研究所計量標管理センター | 22) 同 審議会 |
| 10) 医療機器センター | 23) 日本栄養療法推進協議会 |
| 11) 結核予防会 | 24) 日本静脈経腸栄養学会 |
| 12) 日本糖尿病学会 | 25) 日本適合性認定協会 (JAB) |
| 13) チーム医療推進協議会 | 26) 黒住医学研究財団 |

48 監査

業務監査、会計監査を次の日程で受けた。

- 1) 平成25年4月19日(金)、22日(月) 平成24年度期末監査
- 2) 平成25年10月25日(金)、29日(火) 平成25年度中間監査

49 会員数

平成26年3月10日現在の会員登録状況は、次のとおりである。

- ◇ 会員登録数 52,572名 (前年同期 51,088名)
- ◇ 継続会員数 49,858名 (前年同期 48,538名)
- ◇ 新入会員数 2,714名 (前年同期 2,550名)

50 第60回国家試験問題評価

平成26年2月19日(水)に実施された臨床検査技師国家試験について、その試験問題の評価を実施した。また、その結果を報告書として平成26年2月25日(火)に厚生労働省へ提出した。